

圧倒的な勝利者

ローマ 8:31-39

このところウクライナへのロシアの侵略行為の様子がニュースで毎日流されています。人類の歴史は戦争の歴史でした。国と国、民族と民族、階層と階層とが絶えず戦い、争ってきました。ある人が「平和とは戦争と戦争の間のことです。」と言いました。私たちの社会には、武器を取って戦う戦争ばかりでなく、さまざまな戦争、戦いがあります。身近なところでは、教育の世界での「受験戦争」や、企業の世界の「売上や利益をめぐる戦い」などがあります。何でもランク付けがなされそれを目にします。テレビで有名な幼稚園の受験のために、赤ちゃんまでも塾に通っている報道がなされていました。そんなふう小さいころから何ごとにおいても競争させると、子どもたちは他の子どもがみな競争相手だと思ひ込み、友だちを作ることができなくなってしまうのではないかと思います。自分をいつでも人との比較だけで見て、自分の本当の姿を知ることができなくなります。少し人よりすぐれていると思うと優越感にとらわれ、人を見下すようになり、人より劣れていると思うと劣等感に陥って、人を恨むようになります。そういった風潮が競争社会を生み出し、与えられているもので満足が出来ない。もっと得なければ不安で、人に与えることは損をすること、そういう生き方の延長に実際の戦争があるのかもしれない。多くの人の命を奪う戦争の悲惨さを見るたびに、戦争は避けられるだけ避けるべきものだと感じます。しかし、だからと言って、どんな戦いも要らないというわけではありません。戦わなければならないこと、向き合わなければならないことがあります。貧困との戦い、差別との戦い、病気との戦いは、今も必要でしょう。聖書には悪との戦い、罪との戦いという霊的な戦いが教えられています。

使徒パウロは「信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。」(テモテへの手紙第一 6:12)と教えています。宗教改革者たちは地上の教会を「戦う教会」、天にある教会を「安息の教会」と呼びました。クリスチャンは、救われてすぐに天の安息に入るのではなく、地上での戦いをへて、天の安息に入るのです。すべてのクリスチャンは、信仰の戦いに召されています。霊的な戦いに、兵士として招集されているのです。

信仰生活は戦いの生活ですが、信仰のいちばんの敵は何でしょうか。それはサタンです。「サタン」というのは「敵」という意味のことばで、それがそのまま彼の名前となりました。「サタン」というと、物語に出てくるようなもので、実在していないと思っている人がいますが、聖書にはサタンが、創世記から黙示録まで、いたるところに登場します。イエスご自身がサタンと戦われました。サタンの存在を否定するならば、聖書がサタンについて書いてあるところは本当ではないということになり、それは、聖書のすべてが真実な神のことばであるという信仰と矛盾します。また、イエスのおことばとみわざを否定することにもなりかねません。サタンは「悪魔」とも呼ばれます。「悪魔」という名前には「訴える者」「そしる者」という意味があります。ローマ 8:33~34 に「神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。」とあるように、悪魔は「このクリスチャンは、こんな悪いことをし、あんな罪も犯しているではありませんか。」と言って、神に向かってクリスチャンを訴え、クリスチャンに対しては「おまえはまだ罪深い。罪が赦されたと言って喜んでるが、そんなに簡単に罪が赦されるわけがない。」と言って、クリスチャンを不安に陥れ、神から引きはなそうとします。クリスチャンの信仰の中心は「罪の赦し」です。クリスチャンが宣べ伝えているのはまさに「罪の赦しの福音」です。これを否定してしまえば、クリスチャンの信仰は骨抜きになってしまいます。サタンは全知全能ではありませんが、霊的なことにおいてははずば抜けた知識を持っていて、どこを突けばクリスチャンをダメにしてしまえるかを良く知っているのです。それでクリスチャンにとっていちばん大切なものを攻撃してくるのです。

このサタンに立ち向かい、彼に打ち勝つには、キリストの十字架と復活と昇天を信じる信仰が必要で

す。ローマ8:34に「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。」とあります。キリストが死んでくださったのは何のためでしょうか。十字架の上で、私たちの罪とその刑罰を引き受けてくださるためでした。キリストが死を打ち破って復活されたのは何のためだったのでしょうか。それは、十字架の救いが確かなものであることを保証するためでした。主は40日してから天に帰りました。何のためでしょうか？ キリストを信じる者のためにとりなしてくださるためです。私たちは、みずからがキリストに祈り、キリストのお名前によって神に祈るだけでなく、キリストによって祈られて、罪のゆるしをいただくのです。キリストの十字架があるのに、罪が赦されないことがあるのでしょうか。キリストが復活されたのに、私たちが罪から解放されないことがあるのでしょうか。キリストがとりなしていてくださるのに、私たちが罪の力に敗北したままで終わることがあるのでしょうか。

キリストが復活されたのは私たちの信仰も生き返り復活するということです。それをリバイバルと言いますね。昔のことばではありません。「イエス・キリストはきのうも、きょうもいつまでも同じです」ヘブル13:8から今も働き出します。もし、誰かの信仰がすこしも成長せず死んだようになっていたとしても、もういちどキリストの十字架と復活を心に刻むなら、その信仰はよみがえるのです。

使徒パウロがローマ人への手紙を書いた時、クリスチャンはまだそんなに多くはありませんでした。人々はクリスチャンをユダヤ教の一派としてしか扱っていませんでした。教会も、まだ土地や建物が無く、個人の家で集まりを持っていて、おおやけの目に触れないこともありました。しかし、クリスチャンの数が増えるにつれて、クリスチャンは迫害を受けるようになりました。ローマ8:35でパウロは「私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」と言っていますが、「患難」、「苦しみ」、「迫害」、「飢え」、「裸」、「危険」、「剣」は、まさにパウロがその伝道生涯で体験してきたことでした。やがて大規模な迫害が始まり、パウロだけでなく、多くのクリスチャンが危険にさらされ、命を奪われていきました。私たちは、現代、信仰の自由が保証されている中にいますから、そんな迫害が今もあることを忘れがちです。世界にはまだまだ信仰の自由のない国々が多くあることを覚えて祈りたいと思います。また、信仰の自由のある国でも、多くの人がこの世と妥協して生ぬるくなり、そういう人が真実に信仰を求める人を妨げるということが起こっています。そうしたことは迫害よりも、もっと私たちの信仰を損なうのです。

けれども、パウロは叫んでいます。「私たちは、…これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」「圧倒的な勝利者」というのは「征服者以上の存在」「圧倒的な征服者」という意味です。古代にはバビロンのネブカドネザルやマケドニアのアレクサンダー大王といった征服者たちがいて、広大な帝国をつくりました。パウロの時代には、ローマの皇帝たちが世界の征服者たちでした。パウロは、ローマに征服されたユダヤ民族のひとりにすぎませんでした。クリスチャンは人の目からは羊のように弱々しく見えたでしょう。迫害の時代には、36節にあるように、「ほふられる羊」、殺されゆく羊のように思われました。しかし、キリストを信じる者は、どんな征服者にまさるもの、ローマ皇帝よりも強い者です。ローマ皇帝はクリスチャンの財産を奪い、その肉体を傷つけ、命を奪いました。しかし、クリスチャンから信仰を、キリストへの愛と忠誠を、そして永遠の命を奪い去ることはできませんでした。そして遂には紀元380年、ローマではキリスト教が国教となりました。まことの信仰者はなにものによっても征服されることはないのです。

38-39節でパウロはこう続けます。「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」すべての人は死を迎えます。ローマ皇帝がいくら「自分は神だ。わたしを礼拝せよ。」と言っても、しよせんはやがて死なな

ければならない存在です。死は、人類の最後の敵ですが、死と戦って、誰も勝った人はいません。私たちの死亡率は100パーセントです。しかし、ただひとり、死に勝利されたイエス・キリストがおられます。イエスをご自分の死によって死を滅ぼし、墓をうちやぶって復活されました。キリストの復活を信じる者は、キリストの復活の命に生かされて、キリストとともに永遠の国で生きるのです。キリストを信じる者は死さえも征服する圧倒的な勝利者なのです。

武力で国々を征服した者たちはやがて、武力で征服されていきました。それは歴史が証明しています。どの征服者も、同じ時代の力ある者や次の時代に興る勢力におびえました。そのために自分の家族を邪魔者として殺すこともよくあった話です。キリストを信じる者は「今あるものも、後に来るものも」恐れませんが、どんなに「力ある者」があったとしても、それは「被造物」に過ぎないからです。「高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」と聖書は言っています。造られたものは、造り主を超えることはできません。それでも自分が神になろうとしてしまうのです。神はすべてのものを造られた創造者です。この神が私たちを愛しておられるなら、神を愛している者を誰が征服できるでしょうか。神が、私たちの味方であるなら、誰が神を信頼する者を打ち負かすというのでしょうか。人生は戦いです。人生にはさまざまな悲しみがあり、苦しみがあり、理不尽なことがあります。キリストを信じる信仰を持っていれば、そうした苦しみに遭わなくてすむというわけではありません。むしろ、キリストに従おうとすればするほど、キリストに従うための苦しみや困難が増し加わるでしょう。

しかし、私たちは恐れませんが、なぜなら、神が私たちの味方だからです。信仰の戦いで勝利を収める秘訣は、一番強いお方を味方につけることです。自分の弱さを認めて、こころから神に頼る者を神はお見捨てになりません。神は、そのような人々の味方になってくださるのです。神が味方になっておられる者に敵対する者は、神に敵対するのです。その人に勝ち目はありません。神によって、復活されたキリストによって、私たちは苦しみや困難の只中でも、圧倒的な勝利者になることができるのです。「神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」